

＜日本文学・言語・文化＞国際研究フォーラム——知と体験

主催：文藻外語大学日本語文系

協催：One Asia Foundation

時間：2017年6月10日(土)9:00-17:00

会場：文藻外語大学至善楼

時間	プログラム				会場
9:00-9:30	受付				至善楼 13F
9:30-9:40	開会式				至善楼 15F 國璽會議廳
9:40-10:30	基調講演 「東アジアの文学交流——魯迅と日本の近代作家」 講演者 藤井省三（東京大学教授） 司会者 林淑丹（文藻外語大学教授・学科主任）				
10:30-10:50	休憩				
10:50-11:50	研究フォーラム 「東アジアの中の文学者——知と体験」 パネリスト 藤井省三（東京大学教授） 林水福（南台科技大学教授） 朱秋而（台湾大学教授） 林淑丹（文藻外語大学教授・学科主任） 司会者 段裕行（文藻外語大学助理教授）				至善楼 15F 國璽會議廳
12:00-13:30	昼食				至善楼 16F
	論文発表（発表20分、コメント5分、討論10分）				
	文学	日本語学・教育		歴史・社会・文化	
	会場 A Z1211	会場 B Z1307	会場 C Z1308	会場 D Z1309	会場 E Z1310
13:30-14:10	A-1 コメンテーター 頼衍宏	B-1 コメンテーター 頼錦雀	C-1 コメンテーター 陳志文	D-1 コメンテーター 林嘉惠	E-1 コメンテーター 林潔
	司会者 楊淑容	司会者 頼美麗	司会者 黄意雯	司会者 安達信裕	司会者 倉本知明
	発表者 盧秀滿 （文藻外語大学副 教授） 日本の漢文小説 《賢乎己》の研究	発表者 陳美玲 （東呉大学副教授） 話しことばにおけ る接続表現の習得 についての事例分 析	発表者 小高裕次 （文藻外語大学助 理教授） スピーチ・ディベ ートの引用資料か らみる台湾人学生 のメディアリテラ シー	発表者 黄幼欣 （南台科技大学副教 授） 一次資料で紐解く 日本統治下台湾の 紙芝居の展開—台 南の末広公学校の 実践活動を中心に	発表者 范如苑 （台南大学助理教 授） 日本の写真と文化 —写真家畠山直哉 の作品を中心に

14:20-15:00	A-2 コメンテーター 頼衍宏	B-2 コメンテーター 頼錦雀	C-2 コメンテーター 陳志文	D-2 コメンテーター 林嘉惠	E-2 コメンテーター 何思慎
	司会者 楊淑容	司会者 頼美麗	司会者 黃意雯	司会者 安達信裕	司会者 倉本知明
	発表者 黄佳慧 (文藻外語大学兼任 助理教授) 「もののあはれ」 の中国語訳をめぐ って—その本来の 語意・各作者によ る趣意・宣長によ る釈義	発表者 方斐麗 (文藻外語大学助理 教授) モダリティ形式の 特徴から見る日本 語の「だろろう」と中 国語の“吧”	発表者 鄭恩英 (文藻外語大学専 案講師) 遠距教學之學習成 效探討—以文藻韓 文—課程為例	発表者 傅玉香 (屏東大学副教授) 台湾を旅する紙芝 居文化—受容・変容 の観点からの考察	発表者 李珮蓉 (文藻外語大学助理 教授) 日本の原子力政策 に関する—歴史社 会学的考察
15:10-15:50	A-3 コメンテーター 齋藤正志	B-3 コメンテーター 洪心怡	C-3 コメンテーター 林蕙美	D-3 コメンテーター 邱若山	E-3 コメンテーター 陳文松
	司会者 謝惠貞	司会者 小高裕次	司会者 李珮蓉	司会者 王長龍	司会者 段裕行
	発表者 楊淑容 (文藻外語大学講 師) 芥川龍之介の後 日談について— 「トロッコ」を中 心に	発表者 黃思璋 (文藻外語大学助理 教授) 「日本語らしさ」へ のアクセント句の 影響—連体修飾節 を中心に	発表者 謝億榮 (文藻外語大学助 理教授) 日本語教育におけ る知と体験—文藻 の学生における日 本での海外企業イ ンターンシップを 例に	発表者 謝宗倫 (義守大学兼任講 師) 後藤新平の「帝都復 興」政策からみる 「生物学の原則」	発表者 陳淑瑩 (文藻外語大学助理 教授) 国家意識の養成— 『公學校地理書第 二種』を中心に
16:00-16:40	A-4 コメンテーター 齋藤正志			D-4 コメンテーター 邱若山	E-4 コメンテーター 陳文松
	司会者 謝惠貞			司会者 王長龍	司会者 段裕行
	発表者 姜文姬 (同志社大学博士 後期課程) 1950年代におけ る炭鉱記録と『に あんちゃん』 (1958年)			発表者 番匠健一 (同志社大学<奄美・琉 球・沖縄>センター 研究 員) Settler Colonizationに 関わる日本・ドイツ・植 民地期台湾の知的連関— 東郷実と高岡熊雄のドイ ツ内国植民研究	発表者 安達信裕 (文藻外語大学助理 教授) 1904年および1907 年の公学校規則改 正にみる山口喜一 郎の公学校への考 え